

令和5年度第1回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和6年1月18日（木） 午前10時～12時

会場：千葉県立美術館 研修室

出席者： 委員 高橋委員（議長）、関沢委員（副議長）、濱田委員、井口委員、
 外木委員、鴻野委員、綱島委員、門脇委員

博物館 美術館：貝塚館長、木野崎副館長、中松副館長、植野学芸課長、
 鈴木普及課長

中央博物館：田中館長、米谷自然誌・歴史研究部長、
 島立生態・環境研究部長、

現代産業科学館：藤田館長、堀内学芸課長、渋谷普及課長

関宿城博物館：糸原館長、竹内学芸課長

房総のむら：岩崎館長、大森副館長

文化振興課 立和名副技監兼学芸振興室長、宮川副主査、小出副主査

事務局 大木企画調整課長、尾崎上席研究員、樽研究員（記録）

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 博物館法の一部を改正する法律の概要
千葉県立中央博物館リニューアル基本計画骨子案
県立博物館における地域連携と地域振興

1 開会【事務局】：委員10名のうち8名の出席により会議成立。

傍聴者2名。

2 あいさつ【中央博物館：田中館長】

3 出席職員紹介

4 議事（別紙参照）

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

(1)：博物館法の改正について

【高橋議長】

これより議事に入ります。

本日も、ご専門の立場、またそれを離れた立場での活発なご意見ご質問等お寄せいただき
たいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、最初の議事ですが、博物館法の改正についてです。中央博物館から説明をお願
いいたします。

【中央博物館】

配布資料を用いて説明

【綱島委員】

議事の2にあるリニューアルは、何時ごろ行うものなのでしょうか？

【中央博物館】

リニューアル基本計画の策定は、文化振興課と中央博物館で進めております。この基本計
画が定まった後に実際の工事等を行うため、リニューアルはまだ先の話です。

【高橋議長】

この博物館法改正について、本協議会で最も考えなくてはならないことはなんでしょう
か？

【中央博物館】

本協議会は学校教育や社会教育をはじめ、様々な分野からの委員をお迎えしております。
法改正で努力義務となった地域連携、地域振興というテーマがこの協議会に合致するもの
と考えました。また、本改正では、博物館資料のデジタルアーカイブ化も含まれておりま
すが、これについては昨年度の協議会でご意見を頂戴いたしました。このほか博物館の登
録制度なども改正に含まれています。繰り返しになりますが、博物館における地域連携や
地域振興について本協議会でご意見を賜りたいと考えています。

(2) 千葉県立中央博物館リニューアル基本計画の策定について

【高橋議長】

それでは続きまして、千葉県立中央博物館リニューアル基本計画の策定について文化振興課からご説明をお願いします。

【文化振興課】

配布資料を用いて説明

【鴻野委員】

14 頁、基本理念について、本物を大切にするとございました。博物館法の一部を改正する法律の内容について、先ほど田中館長からご説明いただいた際も、資料のデジタルアーカイブ化を進めていくとともに本物を保存していくことが重要であるとありました。昨年文化財が不適切な形で保存されていて、学識経験者がデジタル化していれば本物は廃棄してのいいのではないかという発言がありましたが、今後デジタルアーカイブ化が進んでいく中で、このような風潮が広まっていくのであれば大変憂慮すべきことであると思います。ですので、今回デジタル技術の活用とともに収蔵庫の拡充が示されていることが大変大事なことだと思えます。

【井口委員】

資料がよくできているという感想を持ちました。

千葉県の博物館の設置構想という千葉県が他の県に先駆けて素晴らしい構想を作りました。この中で我々は仕事をしてきて、市町村は県立館の職員の皆さんからいろいろなことを教わって、やっと地域の博物館の体をなしてきた博物館もあると思います。平成 11 年に 10 館 1 施設あった県立博物館は現在 5 館 8 施設となっていますが、この過程で生じた課題等を利用者、県民に対してどのような形で、どの程度、オープンにしてきたのかというところをお聞きしたいです。

【文化振興課】

博物館の集約に関しましては、令和 2 年に出しました県立博物館のあり方以上のものはまだ今の時点では公表しておりません。ただ集約していただくだけではなく、きちんと機能は残しつつ地元と連動して県内の博物館行政がこれまで行ってきたものが倒壊しないように取り組んでいるところでございます。一方でご指摘いただいたように従来の県立博物館が地域の博物館とお付き合いしてきた中で、今は地域の博物館がその地域で活動して、県立博物館を追い抜いていることもあります。今後も上下の関係でなく、一緒に連携していきたいと考えております。

【井口委員】

今後地域連携を進めていくにあたって、他の博物館や社会教育団体等の博物館を取り巻く団体、地域と距離を縮めて意思疎通を図っていい仕事を進めていくのであれば、情報提供、共有の方法が信頼関係を作っていくために必要になると思います。今後はこういったことに力を入れていただきたいです。

【高橋議長】

県立博物館の地域連携はどのようなものがあるのでしょうか？

【中央博物館】

後ほど、各館からご説明いたしますが、博物館は学校、社会教育施設、民間などさまざまな主体との多種多様な連携を取り組んでおります。後ほどの説明をお聞きいただいて、ご理解いただければと考えております。

それから、先ほどの井口委員の質問、市町村立などの博物館と県立博物館の連携といったところについてですが、千葉県博物館協会には63館が参加しており、この中で情報交換や、資料救済活動など情報の共有を図っているところでございます。

【綱島委員】

博物館は教育と切っても切れない関係にあると思います。自分が子供の頃思った博物館はワクワクしたことを覚えております。ここで何を言いたいかと申しますと、14ページの基本理念のところですが、これを外に発表することを考えると少し難しい言葉が入っているように思います。私共メディアでもお子さんが分かる平易な言葉で発信することをベースに考えています。この理念等を発信するときの基本的な方針については、もう少し平易な言葉で、お子さんたちがワクワクするようなものを出していただけるといいなと感じました。

【文化振興課】

ご意見ありがとうございます。この基本計画の作成後に概要的なものも発信していく予定です。今後行うパブリックコメントをいただくときはこのまま出すのではなく、わかりやすいものを準備していきたいと思っております。

【関沢副議長】

パブリックコメントとして出す際はこの資料をこのまま出すわけではなく、概要版もしくは文章にして出されるのでしょうか。

【文化振興課】

この状態のまま出すわけではありません。

【鴻野委員】

博物館の役割が拡大していく中で、今後どのような人員が必要で、例えば拡充が必要なのかとかもし現場の方に何かご意見を伺えたらと思います。今後必要な分野というものは何か今の時点でありますでしょうか？

【中央博物館】

中央博物館は大きく分けて、自然系と人文系の2分野に分かれます。自然系の中でも、動物や植物等のさまざまな分野に分かれており、その分野ごとに職員を配置しております。今後は分野を横断した「融合」という形で業務を行うことを検討しております。

【文化振興課】

過去、専門職員の採用が20年程度止まっていた時期がございます。この影響もあり、最近では毎年10名近い人数が退職をしており、あと5年経つと職員の数が半数近くになってしまうので、県の方では採用を年間7名ほど、また昨年からは40代、50代の方を対象とした経験者採用枠を設けております。加えて、博物館で働く人たちの専門分野は研究分野だけではないことも意識して、植物、地学といった専門のカテゴリとは別に、例えば教育普及といった分野での募集も検討してまいります。

【高橋議長】

少し具体的な話になってしまいますが、地域連携や教育等を考えると、ボランティアの組織化とかNPOとの関係等の視点もあるかと思いますが、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。

【文化振興課】

県では、博物館の中で活動していただく方、支える方は職員だけでは足りないと認識しております。資料で地域に開かれたと申し上げているのは、これから人口も減っていく中で、連携等を意識して博物館活動を持続可能にしていくことを考えております。

【中央博物館】

中央博物館では、200名近くの方にボランティアとして活動いただき、このようなボランティアの方々の力も借りながら博物館活動を行っております。また、より専門的に学びたいという方向けの市民研究員制度を整備しております。

(3) 県立博物館における地域連携と地域振興について

【高橋議長】

それでは、次の議題、県立博物館における地域連携と地域振興について事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

先にご説明したとおり、博物館法の改正により地域連携の努力義務が明文化されました。令和3年度にも本議題について議論いただいておりますが、当時いただいたご意見を踏まえつつ現在行なっている取り組みについても説明してまいります。なお、今後の各館の連携事業等の計画につきましては、本会議の3回目にご説明いたします。

【美術館】

配布資料とパワーポイントを用いて説明

【鴻野委員】

千葉県立美術館は現代アートの優れた展覧会で話題になっております。今年度は日本の現代アートのスター的存在であるクワクボリョウタさんの展覧会が開催されたことは大変嬉しい驚きでした。今回のテオ・ヤンセンもそうですし、来年度は千葉在住のアーティストの展覧会があると伺っております。今のように展覧会が充実している中で地域との連携にもこれだけ尽力されているということに大変驚きました。こうした連携を行うことで美術館にいらっしゃる方が増えていくのかなと思います。

【高橋議長】

千葉には若い方が多いので、今の美術館の路線はいいと思っています。

1点質問ですが、さまざまな場所でワークショップを行われておりますが、これは向こうから依頼があるのでしょうか。それとも美術館から声掛けを行っているのでしょうか。

【美術館】

現状は「ワークショップをやってください」というお声がかかるほうが多いです。お声をかけていただく方々のことは大事にし、今後は我々がプロアクティブに動くことも多少必要だと思っておりますが、この割合についてはバランスを見て取り組んでいきたいです。先ほどの説明で、千葉みなとということ強調しましたが、もちろん銚子や館山など他地域の方々も大事にしたいと思っております。地域のバランスも十分に考えて活動しております。また、中央博物館リニューアル計画の中でつなげるという言葉がキーワードとして挙がりましたが、これは本当に重要だと認識しております。今、日本の人口全体が減っている時代です。美術館だけ、千葉県の職員だけ増やせというのは無理な話で、今後は多様な連携が絶対に必要になります。うまく連携したところだけが残っていくと思っております。

す。メディア、学校、社会教育など様々なものとうまく連携をしていくことがこれからのキーワードと強く思っているところでございます。

【門協委員】

私もワークショップのお話ですが、外に出られていることで、広報にも繋がっていると思うので非常にいいと思います。

このワークショップは参加者に有償で行っているのか、企業さんからの招待の場合は企業さんが全ての経費を持って行っているのか、その辺りをお伺いしたいです。

【美術館】

ほとんどの場合は無料です。お金をいただくときは材料費程度ということでございます。

【門協委員】

今後もその方針は変わらないのでしょうか。

【美術館】

大きく変えるつもりはございません。なるべく幅広い方にアートに楽しんでいただく機会を設けて、また美術館内で活動するということで、できれば千葉みなとに来てほしいと考えております。

【濱田委員】

千葉県の移動美術館で富里市のお話が出ましたが、実は富里市が図書館をリニューアルして、美術を展示できる場所を作りました。それで市からお声がけして来ていただいたところもあると思います。富里市から千葉は遠く、子どもたちが美術館に行くことは難しいので、このように近くまで来てくれて身近にそういう場所があるということはいいと思います。もっと子どもたちに文化を体験してほしいという市の方針があるからこそ、今回のように県と連携できるという部分もあると思っております。だから、県からたくさん発信をしても受け手の方がこのような思いを持っていないといけないということもあるので、予算面や、子どもたちに必要だということを市町村の教育委員会にもたくさん発信していただくと受け手も考えていくのではないかと感じました。子どもたちは移動美術館をすごく喜んでいました。

【高橋議長】

続いて、中央博物館説明をお願いします。

【中央博物館】

配布資料とパワーポイントを使用して説明

【卯木委員】

教室博物館についてですが、毎週金曜日に現地へ来てくださるのでしょうか？

【中央博物館】

人員の関係で、現在は月に2回職員が勤務しております。この事業は平成15年度からは続けている事業で、開始当時から職員が毎週金曜日に勤務することで、放課後や昼休みに訪れて質問などに応じるという活動を行ってきました。現在では、教室博物館がある地域が、清和県民の森周辺ですが、この地域で教室博物館という活動が定着しております。また、年4回教室博物館周辺の自然や文化についてのニュースレターを発行し、全戸配布して、できるだけ顔が見える博物館活動を展開しております。

【卯木委員】

このような試みを回数を減らしてでも他の地域や団体で行うことはできるのでしょうか。

【中央博物館】

検討します。

【高橋議長】

いろいろな場所出張展示や観察会を行っておりますが、お客さんがきやすいテーマなど統計はとっていらっしゃるのでしょうか。

【中央博物館】

恐竜、昆虫、深海生物が非常に人気があります。

【高橋議長】

それでは、現代産業科学館説明をお願いします。

【現代産業科学館】

配布資料とパワーポイントを用いて説明

【関宿城博物館】

配布資料とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

埼玉と近いとご説明がありましたが、埼玉の方とは何か連携されているのでしょうか。

【関宿城博物館】

埼玉県の新井市がすぐ近くにあり、新井市の郷土資料館と展示で連携しております。また今年はお互いに講演者を派遣してそれぞれの博物館で講演会を開催しました。

【井口委員】

高校生とつながるとありましたが、難しい面が多くあると思います。ミニ集会参加による定期的な情報交換とは具体的にどのようなことを行っているのでしょうか。

【関宿城博物館】

これは、地域の中で高校を運営していく方々の一つに加わり参加させていただいているということです。

【高橋議長】

最後に房総のむら説明をお願いします。

【房総のむら】

配布資料とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

外国語の対応についてですが、多言語化はどのくらい進んでいるのでしょうか。

【房総のむら】

現在、英語、中国語 2 種類、韓国語のリーフレットを用意しておりますが、東南アジアのお客様が多くお見えになることから、今後はこちらにも対応していかなければならないと考えております。

【高橋議長】

展示に関してはいかがでしょうか。

【房総のむら】

簡単な説明はつけております。当館は県から委託を受けた指定管理の施設でして、4月からの指定管理はまだ決まっておりません。もし決まりましたらスマホ等をかざすと対応ができる形も考えているところがございます。

【高橋議長】

成田から近いので、来ていただけると楽しむことができる施設だと思います。

【房総のむら】

先ほどご説明したドラムの里という施設が隣にあります。ここにはコスプレ館というものがあって着物や忍者の姿に着替え、(房総のむら)館内に入っただけです。外国の方はコスプレを気に入っているようです。

【高橋議長】

ありがとうございます。全体を通して質問等ございますでしょうか。

【綱島委員】

委員ではなく、NHKという立場で申し上げます。今お聞きしていて、色々な事業を行っていることを感じております。ぜひNHKを使っていただいて、千葉県の魅力を発信したいと思っております。営利目的ではないこと、それから他の美術館や博物館と差異があって新しいものがあるということだとNHKの方で発信しやすいのでぜひたくさんのお情報をいただきたいです。総合テレビの夕方6時台の首都圏ネットワーク、特に水曜日は「おかえり天気」というコーナーは千葉県発で取り上げています。そうしたコーナーなどで、美術館、博物館のさまざまな取り組みを発信していければと思います。

【高橋議長】

ただいまのご発言に関連すると思うのですが、プレスリリースはどのくらいの頻度で行なっているのでしょうか？

【中央博物館】

中央博物館では、論文が出たとき、展示が始まる前に行なっています。

【文化振興課】

プレスリリースに関しては、学芸振興室が全部取りまとめております。現在では、展示等の行事の発信だけでなく新たな研究成果も発信しており、年間200近くリリースしております。

【井口委員】

中央博物館の地域連携について、学会、研究会、NPOとの連携とありますが、ここに関連してお願いしたいことがあります。私は千葉県文化財保護協会という団体に属しており、その活動の一環で中央博物館の講堂をお借りして講演会を行っています。このような団体

も高齢化しており、今後の活動をどのように継続できるかという不安がありますが文化財を守っていこうとする熱い思いを持っている団体でもあります。少しでもその存在と活動について周知を図りたいし、博物館活動にも寄与できる場所があると思いますので、連携団体として広く認識していただけるよう、よろしくお願ひしたいのです。

(4)：その他

【高橋議長】

事務局からは何かありますか。

【事務局】

ありません。

【高橋議長】

各委員からは何かありますか。

【委員】

ありません。

【高橋議長】

他にご意見等がなければ、これで議事を終了とし、事務局に進行をお返しいたします。ありがとうございました。